

## 履修の心構えと効果的な学習方法

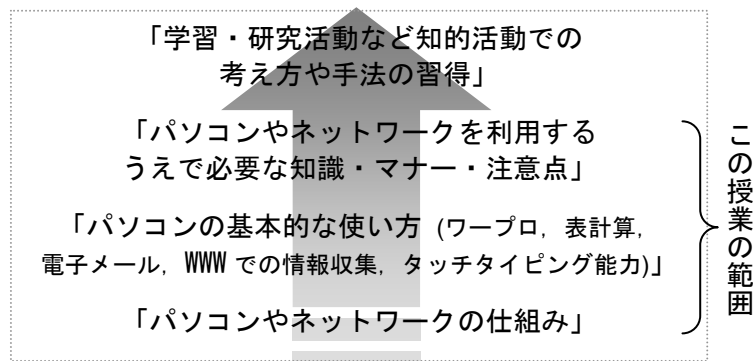
担当：笹原・匂坂・佐藤・清水・千葉・宮脇

### コンピュータ・リテラシーの授業の目的

- 「情報化社会」において、学生として、また社会人として、最低限必要となる情報リテラシーを身につけよう！
- コンピュータなどの情報機器のしくみや、情報通信技術 (ICT, *Information and Communication Technology*) の基礎的な概念を理解し、実習を通じてパソコンやネットワークなどを使いこなそう！

### コンピュータ・リテラシー履修の心得

- (1) コンピュータ・リテラシーは、パソコンやネットワークを使いこなすための能力をつける準備運動のようなもので、ここで習うことは、これから4年間の大学生活、さらには社会に出てからの生活を支える大切な基礎となります (下図を参照)。

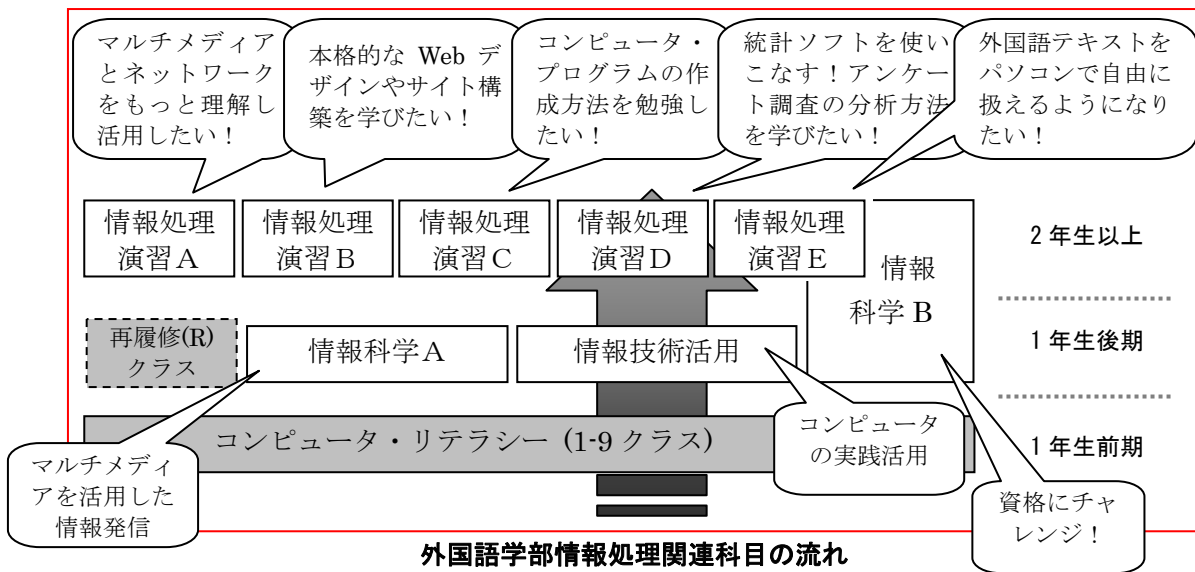


### コンピュータ・リテラシーが目指すもの

- (2) パソコンは智力・脳力をパワーアップする道具です。しかし、すべてを皆さんの代わりにやってくれるわけではなく、「何をするか」「どうやってするか」を決めるのは、皆さんです。授業で指示された操作をただ行うのではなく、「何のために作業をしているのか」を理解するようつとめましょう。
- (3) 操作は、何度も練習してはじめて身につきます。課題をしっかりとこなし、分からないところは粘り強く復習することが習得の近道です。授業では先輩方がTA (ティーチング・アシスタント) としてお手伝いしてくれますが、自分ひとりでできるまできちんと復習し、授業で学んだ知識を確実に身につけるよう心がけましょう。

コンピュータの操作や、授業などで「これは重要」と思ったポイント、新しい用語はすぐにメモをとりましょう。コンピュータに関する情報はたくさんあり、ほうっておくと次々に増えて、何が重要なのがわからなくなってしまいます。どれが自分にとって大切かは自分にしかわかりません (し、逆に全部覚える必要もありません!)。また、とらないと忘れてしまいますし、調べるための手がかりを失ってしまいます。

## 外国語学部の情報系科目の流れ



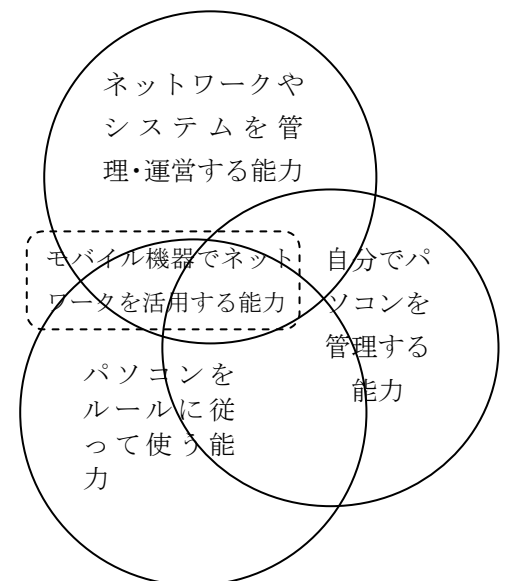
- ◇ コンピュータ・リテラシーは必修科目です。前期のクラスで単位を取得できなかった人むけに再履修クラス (R クラス) が開講されます (後期)。
- ◇ 「情報科学A」「情報技術活用」は7月にコンピュータ・リテラシーの授業の中で履修希望を調査し事前にクラス分けを行います。1年次後期に両方の科目を履修することもできますし、一方を後で降履修することも可能です。(演習科目の一部はこれらの科目の履修が条件になっています。)
- ◇ 「言語・情報コミュニケーション」副専攻は「情報科学 B」が必修です。パソコン検定(P 検)準2級を取得し「情報科学 B」の単位認定を申請できます。P 検の団体受験は学内で定期的実施されます。

### よくある質問

- 大学では、パソコンを買うよう強制することはありません。大学のパソコンやネットワークを使うことで、情報機器を扱うための基礎的な知識(「パソコンをルールに従って使う能力」, 右図を参照)を得ることができます。麗澤大学の充実した情報設備を活用しましょう!
- パソコンを自分で管理し、調整や拡張の経験を積むことで、さらに多くの知識(「自分でパソコンを管理する能力」)を得ることができます(右図を参照)。自分の学習状況や経済状況を考慮し、購入を検討するのもよいでしょう。

現在購入できるパソコンの多くは、大学PCのWindows XPより、新しいWindows VISTAや7という基本ソフト(OS)で動いています。これらはXPとは操作方法や機能にさまざまな違いがあります。コンピュータ・リテラシーでは、大学の環境を中心に実習をおこないますが、最新の情報についても随時触れていきます。

- さらに、ノートパソコンを学内でネットワークに接続することができます(ヘルプデスクに無線LAN接続を申請してください)。ネットワークの接続方法をマスターすることは、モバイル機器でネットワークを活用する第一歩です(右上図を参照)。
- 大学の情報システムの管理・運営を手助けするTA (Teaching Assistant)になることで、さらに「ネットワークやシステムを管理・運営する能力」を身につけたり、情報機器の利用方法を指導する経験ができます(右上図を参照)。TAの募集は掲示が出ますので注意してください。先輩TAや教員に自分をアピールしておきましょう! (以上)



情報機器の運用能力いろいろ